

私の探鳥地（7）（野鳥だより 66号 1986年12月）

美唄泥炭地試験場*

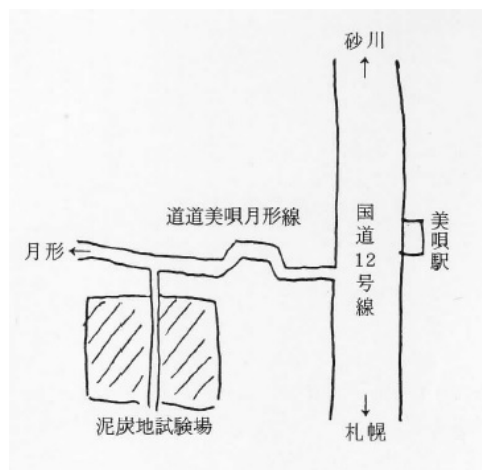
田辺 至

1. 場所

美唄市開発町南、美唄市街より西へ道道、美唄一月形線を月形へ向い約 3km いった所にある農林水産省所属の泥炭地研究室の試験原野として保存された地域です。

2. 概況

現在、石狩平野には殆んど残っていない自然のままの高位泥炭地で広さ 53.9 ヘクタールのササ、ワラビ、ゼンマイの多い草原で、僅かに灌木がはえています。開拓当時のままの泥炭地が残されている貴重な草原です。主な植物としてはハル



美唄泥炭地試験場

リンドウ、ヒメシヤクナゲ、エゾカンゾウ、エゾゼンテイカ、トキソウ、エゾリンドウ、ワタスゲ、タテヤマリンドウ、エゾイソツツジ、ミズゴケ、モウセンゴケ、サワラン、エゾノコリンゴ、ノハナショウブ、ツルコケモモ、タチギボウシ等があげられています。ここでは泥炭地の土壌改良の研究が4人の研究者によって大正8年から続けられています。主として、草原の鳥が見られます。

3. 見どころ

私は4月から5月初めまでは美唄の宮島沼で水辺の鳥を楽しみ、それから5月下旬までは野幌森林公園で森林の鳥を楽しみ、5月下旬より8月まで泥炭地試験場で草原の鳥を心ゆくまで楽しめます。この場所を知る人は少なく、誰にじゃまされることなくのんびりと探鳥ができます。そういうわけで、ここの鳥は人を恐れず、ごく近くで観察や録音のできる事が有難いです。期待をはずされることはなく、いつでも沢山の草原の鳥が見られます。ここの鳥の中で私のお気に入り、姿と声でシマアオジです。特にあの哀愁をおびた声は心に深くひびきます。

4. 見られる鳥

エゾセンニュウ、コジュリン、マキノセンニュウ、アリスィ、アオジ、シマアオジ、オオヨシキリ、コヨシキリ、カッコウ、モズ、ヒバリ、ノゴマ、ノビタキ、オオジシギ、ホオアカ、キジバト等、30種で多いのはシマアオジ、ノゴマ、ノビタキです。

*現在は美唄湿原（北海道農業研究センター美唄試験地）